

はさみ

# 濱口鋏製作所

理美容ハサミの製作  
ひと筋50年  
オーダーがある限り  
つくり続ける



鉄職人 濱口利成さん

16歳から下積み修業、  
20年後に独立してから  
美容学校でハサミの  
使い方を勉強しました。  
使い方がわからんと  
本当の「はさみ」は  
作れませんから

使う人のこだわりを  
カタチにします

ハサミの刃の角度は、髪が滑らかに切れるように調整されています。刃の裏面に溝を彫り、刃の先端に2.5度のひねりを加えています。刃の裏面に溝を彫り、刃の先端に2.5度のひねりを加えています。

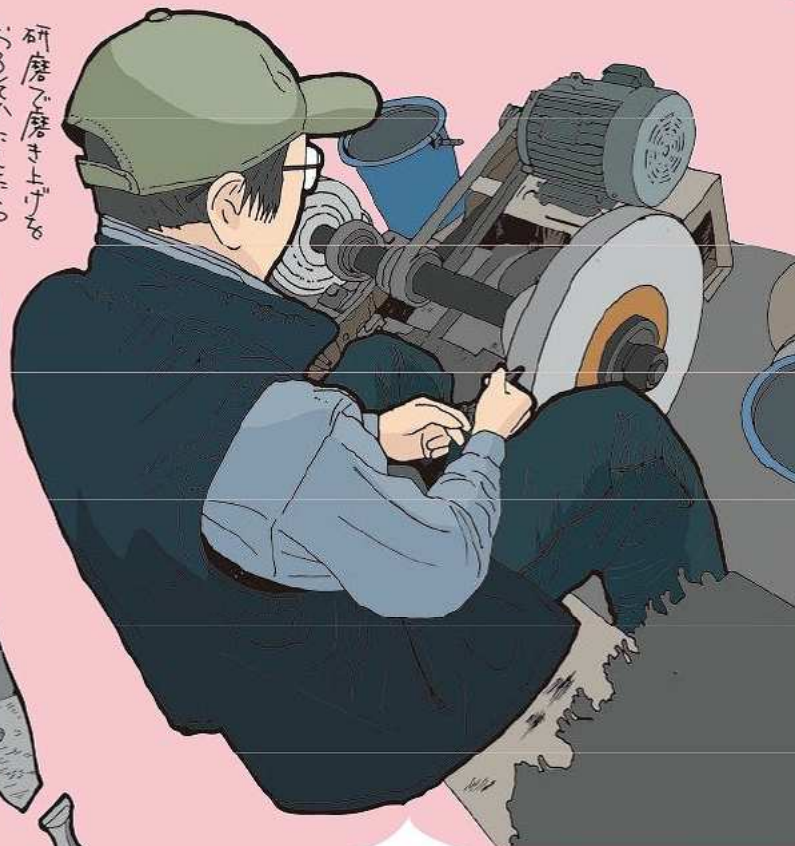


4つのパーツの  
溶接です



ハサミの刃の角度は、髪が滑らかに切れるように調整されています。刃の裏面に溝を彫り、刃の先端に2.5度のひねりを加えています。

研磨で磨き上げると  
ふしふしとした感じが  
します



火花が飛びますよ

ワシが作る鋏(ハサミ)はオーダーメイドばかり。美容師や理髪師のハサミの使い方やカット技法、指の太さや小指のかけ具合など、いろんな要素を考えながら1本1本仕上げます。試行錯誤しながらたどり着いた、切れ味抜群の【直鋏(じかばさみ)】の技術は誰にも負けませんわ(笑)。理美容のハサミは親指以外の4本を固定し親指の上下でカットするん

ですが、クシなしでハサミを下向きにして親指以外の4本を動かしながらカットするのが直鋏。それに適した刃や刃先を作らないと髪がひっかかりたり思うように切れなかったりするんです。試行錯誤しながらワシが見つけた方法は、刃裏の凹面に刃の先端にむけ2.5度ひねって加工すること。2.5度といっても機械で作るのではなく、思い通りのハサミが出来上がっ

てひねりを測ったら、すべて2.5度やったんですわ。からだで覚え、指でつかんだ微妙な感覚が大事ということです。

師匠のもとで20年修業したけど、ハサミの形は作れても使えるハサミが作れなかった。それは、ハサミを使う場面や使い方を知らんからやと思い、理美容師の講習会に参加させてもらい、ハサミでのカット技術も学んだりましたよ。

最近は、すきハサミの注文が多いですわ。たぶん10の種類以上作ってますよ。ハサミ全部合わせると、数えきれんくらい作ってきたな。70歳を過ぎ体力的にもつらいけど、オーダーされる限りハサミを作り続けたいと思ってます。

## ミクロのゆがみを手で確かめ 2本の刃を寸分たがわず合わせる 理美容ハサミの名工

濱口さんが鋏（ハサミ）製作の世界に入ったのが、16歳の時。理容、つまり散髪店で使用される鋏を専門に作る職人のもとに弟子入りし、20年後に独立。修業時代は今のよう機械で刃の形を作ることができず、刀鍛冶のように熱した鋼材を重さ4kgの槌を振りあげ打ち付けて形を整え、何度も磨いて2枚の刃をピッタリ合わせるという難易度の高い作業を経験。

以前は刃先をプレスで作っていたが、今は2本の刃、2本のグリップをそれぞれ型ぬき。大まかなハサミつくりの流れはグリップと刃を溶接でつなぎ、削って焼き入れし、砥石で砥ぎ、2本をネジでとめて完成。この間、50～60もの工程をすべて手作業で行っている。なかでも、ミクロの刃のゆがみを手で触って確かめ、刃の部分を指で触り切れ味を確かめる作業は、経験と技術を積み重ねた職人ならではの技だ。

独立するまでに、刀鍛冶の技法から鋼材をグラインダーで削

る方法へとハサミ作りも変化。さらに、自身の製作所を構えてからは、散髪店に加え美容室でのハサミ利用が急増。美容室ではカミソリを使って髪をカットしたりすいたりしていたが、髪へのダメージ軽減や思いどおりのヘアスタイルを作りやすいなどの理由でハサミを使う美容師が増えた。濱口製作所も、ひっきりなしの注文に追われる毎日。注文は電話やFAX、直接工房を訪れる美容師も多く、使い方やカットのクセ、指の形などを細かく聞きながら指にフィットし、髪をすっとカットできるオーダーハサミを作り上げる。とめネジにストーンをはめ込んだり、ドクロマークを削って作ったり、ハサミ自体の色を変えたり…など装飾を求められることも。完成まで短いと1週間、長いときには2、3カ月かかることも。どんな要望にも、どんなこだわりにも手作業だからこそ応えることができる。美容師から「できるだけ長く続けてほしい」と懇願されるのも納得できる。

### 濱口鋏製作所

〒544-0031 大阪市生野区鶴橋5-17-19  
TEL・FAX 06-6712-3520

事業内容/理・美容カット鋏の製作（理髪店、ヘアサロンで使われるカット用ハサミ、髪のを減らすスキバサミを製作）

ミクロで仕上げます

できる限り  
オーダーに  
こたえています

仕上げの磨き作業は、  
見取鏡を覗きながら、  
流汗の汗を拭きながら、  
丁寧に仕上げます。  
ミクロで仕上げます。

刀を作るのと  
同じです

刀鍛冶の技を継承した  
卓越する技術で  
現代の名工、黄綬褒章を受章

我が社の  
自慢



濱口さんは平成16年に現代の名工、平成19年に天皇から贈られる黄綬褒章を受章。理美容鋏の職人として数少ない榮譽を手にした。刀鍛冶の技法を継承し、高い技術と長年の経験から、本当に使えるハサミを作りあげることができ少数の職人だと言える。

叩いてシメるしっか  
りすること、丈夫に  
なります。